

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891300166
法人名	医療法人 健康会
事業所名	グループホームいしかわ
所在地	愛媛県四国中央市上分町861番地20
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 12 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階には保育所があり、世代を超えた楽しい交流を持つ事が出来ている。また、近隣には関連施設の特養・老健があり、交流行事も多く同世代の人や地域の人との交流の場にもなっている。また、建物の広さと明るさも特徴である。音楽ボランティアが来られた時は他事業所と交流したり、家族会で2ユニット全員が集合しても余裕を持って交流する事ができている。地域の小学校や高校との交流・インターンシップ受け入れを継続しており、将来の介護職員・認知症の理解につながるような関わりを働きかけている。また母体が医療機関であり、24時間緊急時の対応が可能であるため家族や利用者の安心につながっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に欠かせない母体が病院である事業所は、医療面において安心感があると同時に、地元の利用者も多く、利用者や家族にとって地域の中の事業所であると感じることができる。事業所では商店街や公民館、小学校に出かけて行き、地域と積極的に交流をしている。職員は利用者の家族や地域住民、様々なボランティアを自宅に招待するかのように入れている。管理者と職員は、「利用者は地域や社会に貢献してきた人である」との思いを共有して支援している、職員は、利用者を尊重しその人らしさを大切にす支援を心がけている。家族や地域、外部の関係機関とのつながりが深められており、各方面から事業所をサポートしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**  
  
**ーサービス向上への3ステップー**

<b>事業所名</b>	グループホームいしかわ
<b>(ユニット名)</b>	かえで
<b>記入者(管理者)</b>	
<b>氏名</b>	大倉 やよい
<b>評価完了日</b>	H25 年 11 月 14 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 私たちの理念は「ゆっくり・楽しく・いっしょに」である。覚えやすい文言に、職員で話し合っ決めて。 入居者様一人ひとりのペースに合わせるケアの提供、コミュニケーションを大切に心穏やかに暮せる環境づくり、入居者様の意思を尊重して自立の支援に取り組んでいる。理念はフロア等の目に付くところに掲示し共有しており、職員会等で日頃の介護の反省や今後の取り組みを、一緒に検討している。</p> <p>(外部評価) 一昨年、職員間で話し合い見直しを行い、意識に残りやすく実践できる理念を作成している。職員は、日々利用者をよく観察し、一人ひとりの希望に合わせて、一緒に寄り添い行動することに努めている。管理者は地域の敬老会に同行した時に、地域住民と利用者の関わりを見て、利用者は地域や社会に貢献してきた人であると強く感じ、地域に密着した支援に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 他事業所合同作品展開催・盆踊り大会・そうめん流し・祭り・地区敬老会・小学校の運動会参観など、事業所以外の地域の方と交流している。地元小学校との七夕交流会や高校生のインターンシップ受け入れは恒例となっている。 地区の老人会の方、推進メンバーさんの野菜の提供など、入居者様に地元の方が多いため、地元の皆さんとの交流は大変喜ばれる。</p> <p>(外部評価) 近隣に民家が少ない立地であるが、事業所のある地域の利用者も多いことから、商店街や公民館など積極的に出かけている。また、事業所の行事に地域の老人会の方に参加してもらったり、音楽療法やマジックショー、似顔絵などのボランティアの訪問など、地域や外部の人に事業所に来ってもらう取組みに努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 高校生のインターンシップの受け入れを行い、介護や認知症に対する理解が深められるように、また将来の介護職につながるよう協力する取り組みを実践している。 また、市の認知症徘徊模擬訓練へ参加したり、キャラバンメイト研修を受けて認知症サポーター養成の協力をしたり、地域に貢献している。 現在法人内で、「認知症の人を地域で支える」プロジェクトチームを発足しており、介護予防事業としてのサロン等での講演会にも参加して、地域の方の認知症の相談も受けている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>2ヶ月間の取り組みや入居者様の変化などを報告し、それに対するご意見をいただいている。避難訓練に関しては、推進メンバーの中に消防団の方もいらっしゃるため協力的である。訓練の様子をみて指導して下さったり、一緒に消防出前講座に参加して救急対応や防災に関する研修を受けて、意見をいただいている。</p> <p>運営推進会議後には利用者との交流会を設けることもあり、利用者の現状を理解していただいたり地域の行事を教えていただいたりしている。また、ご自分の介護経験をお話していただいたり、地域で困っている認知症の方の情報を地域包括支援センター職員にに相談したり、地域ぐるみで認知症支援できるように意見交換している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議は利用者や家族、地域住民、消防団員、地域包括支援センターの職員、公民館長等の参加を得て開催している。会議の参加者に事業所や利用者の様子を知ってもらうため、利用者との昼食会の開催や消防講座に参加してもらい、意見をもらっている。会議では、参加者から事業所のことを考えての意見が活発に出され、外部の意見を取り入れる機会として十分に機能している。また、会議の参加者に「近所で認知症で困りごとがあれば言ってください」と事業所で相談できることを伝えている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>市主催の消防署の出前講座（防災・救急）を開催して、市と連携がとれる取り組みをしており、市の方の出入りが出来る風通しの良い環境づくりに取り組んでいる。運営推進会議では市の認知症予防の取り組みも教えていただいている。</p> <p>市の認知症サポーター養成の取り組みとして、職員がキャラバンメイト研修を受けて、今後は地域の認知症理解のために協力していける体制を作っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加しており、事業所の実情をよく知ってもらっている。市が認知症理解の取組みを進めるにあたり、法人として市の聞き取りに応えるなどの協力をしている。また、認知症サポーター養成への参加や、毎月、定期的にふれあい相談員が訪問するなど、双方向で連絡を行う関係が築かれている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束に関しては勉強会を実施し、職員が「身体拘束はしてはならない事」と周知できるように取り組んでいる。</p> <p>玄関は日中は開錠している。夜間は防犯のため自動ロックされるが、チャイムが鳴れば開錠できるようになっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月の職員会で、職員が参加した外部研修の伝達研修を実施したり、認知症や身体拘束の勉強会を行い理解を深めている。職員は、利用者が苦痛に感じることや嫌なことは拘束にあたるかと考えており、利用者の立場に立った支援をしている。また、職員が入居したいと思える事業所づくりに努めている。職員間で気になることは管理者に相談し、常に振り返るように心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を実施し、虐待に関して職員が共通認識を持つように取り組んでいる。ふだんの関わりの中の言葉遣いに関しても、接遇研修を委員が年間を通じて受けており、職員会でみんなに伝達している。あらゆる面から虐待行為ではないか、振り返る事が出来るように取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 権利擁護や成年後見制度の勉強会を実施し、学ぶ機会をもうけている。また、人権擁護委員の訪問により学習したり交流する機会を持った。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前にはご家族・本人に来ていただき、グループホームを見学していただき契約を結んでいる。施設の形態や生活様式を説明して理解していただいている。体験利用を希望される方には体験していただき、納得した上で契約をしていただいている。契約時の説明項目をチェック表で設けており、説明忘れが無いように注意している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日常の連絡や面会時、ケアプランの説明時、家族会など、本音を話せる機会をもうけている。 満足度アンケートを実施し、ご意見は職員会で話し合って反映させ、結果は運営推進会議や家族に伝えている。 また、ふれあい相談員が月1回訪問し、利用者が直接言いにくい意見も聞いていただいている。 (外部評価) 月1回、事業所では家族に予定表とお便りを送付するなど利用者の様子を報告している。面会のある家族も多く、コミュニケーションを図るように努め、信頼関係を築いている。年2回行われる家族会の出席率は高く、2ユニット合同の家族会では、地域で関わりのあった家族同士もおり、家族間の交流を深めることができている。また、家族にアンケートを実施し、出された意見や要望は反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会の時には法人の決定事項を報告したり、現場の意見を聞いたりしている。年度初めの事業所目標（BSC）は、全職員で作成した。年度末には個人面接を行って意見や提案を聞く機会も設ける。  (外部評価) ユニットリーダーがユニット間の職員の意見をまとめ、管理者へ意見を伝えている。管理者は、事業所の要望を法人へ伝えることができている。また、利用者の支援に関することは必ずユニットで話し合った後、管理者へ報告している。職員は外部研修へ出張扱いで参加することができ、法人として積極的に職員の資質向上に努めていることが伺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 法人として人事考課制度を導入している。今年度法人移管に伴い、全職員の給与水準を上げている。資格取得者には手当を支給したり、正職員への登用もあった。ケアマネ・介護福祉士取得のためにグループ内で試験対策講座を開いて、向上心をもって働けるように支援している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 人事考課制度を導入し、管理者を含め一人ひとりの力量を把握している。資格取得に向けた支援（合格のための試験対策講座開催）や外部研修は本人の自主性を尊重して自分で選択して参加している。外部研修後は職員会で伝達講習を実施し、まとめて発表するトレーニングにもつなげている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市内でグループホーム交流会を設立し、3ヶ月に1回の勉強会・情報交換を持ち回り主催で開催している。また、愛媛県地域密着型サービス協会に入会しており、定期的で開催される東予地区の研修会に参加している。他グループホームとの意見交換を行った時は、他グループホームの良い取り組みなど伝達講習して、当事業所の取り組みに活かすことができないか検討している。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始前は見学または体験利用をしていただいて、じっくり本人とコミュニケーションを図って、思い・要望に耳を傾けている。また、入居前には利用中のサービス事業所への訪問や自宅訪問等をして、情報交換や本人とコミュニケーションを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 自宅訪問・利用中のサービス事業所・担当ケアマネから、それぞれの立場で取得している家族等の要望に耳を傾けている。これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、ゆっくり聞いて関係作りに努めている。また、体験時の利用者の様子は家族に情報提供し、これから一緒に支援していく関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居初期段階では、これまで関わっていた担当ケアマネ・他事業所・かかりつけ医等との情報交換を行い、背景にある問題を見極めたり支援内容を検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 洗濯干し・洗濯畳み・台所仕事・掃除など、個々の利用者が出来る事は、一緒に会話を楽しみながら行っている。主婦の大先輩として、家事や子育ての悩みを聞いていただいたり、相談相手にもなってもらい、お互いに寄り添う関係作りを築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に勝る介護者はなく、これまでの家族の苦労や葛藤を心に留めて家族や利用者を支援している。そのため、家族には利用者の様子をきめ細かく伝えたり、相談をしているため、一緒に本人を支える協力関係を築く事が出来ている。字の書ける利用者には手紙やメッセージなどを書いていただいて家族との関係が途切れないように留意したり、日頃の暮らしぶりを写真付きの暑中見舞いはがきで送ったりしている。面会時は一緒にお茶を飲んでいただきながら会話を楽しんでもらう、絆を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力の下、家族と一緒に食事（外食）をしたり、自宅に帰って近隣の人と交流する機会を作ってもらったりしている。また、これまで利用されていた美容室を利用したり、地域の敬老会へ参加できるように、入居前の生活習慣を尊重している。地域の老人会の訪問や、友人の面会もある。 外出先に関しては、本人の日常発せられる会話から汲み取って、馴染みの人に会える様に支援をしている。 (外部評価) 利用者のお墓参りを支援したことから、家族が積極的に外出支援を協力してくれるようになった事例がある。外出記録に外出先や面会した人を記録し、馴染みの場所や人の把握に努めている。訪問調査の当日に、多くの利用者が「いらっしゃい」と声をかけてくれ、職員と一緒にお茶を入れてくれた様子は、自宅に招いてもらったようであり、事業所が家庭的な馴染みの場となり、職員と利用者同士の良好な関係が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事・お茶・レクリエーションなど、居室にいる利用者にも必ず声かけして一緒に楽しんだり、孤立感を感じさせないようにしている。 また、仲良し同士で会話が楽しめるように、畳ベンチを設置して環境設定も工夫している。利用者同士の関係性は職員が理解しており、感情で日々変化する事もあるので見守るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設に入居された方には、色紙や写真などを持って面会に行っている。 またその施設の職員に会った時は、その後の様子を聞いたりしている。また、情報提供書は入所前に入所先の施設に提供しているが、退去後も相談を受けた時はこちらでの様子や支援内容について再度情報提供して、退去後も相談や支援に努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアカンファレンスでは、職員全員で一人ひとりについて思いを検討している。日頃の何気ない会話の中に本人の思いがないかなど、日々の関わりの中で意向の把握に努めて、職員間で情報共有している。 思いを伝える事が困難な場合も、表情から読み取ったり返答しやすい質問にしたり、職員を交代するなどの工夫をして、本人の気持ちに沿った支援をしている。	
			(外部評価) 職員は日々の生活や会話を大切に、利用者の思いの把握に努めている。センター方式を用いて利用者を理解し、職員間で情報を共有している。職員からの提案で、利用者の思いを実現させる取組みに力を入れ、干し柿づくりや生家の写真を撮ってくるなどの支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴やライフスタイルを、家族に協力してもらって情報を得ている。また、利用していたサービス事業者やケアマネからも情報を得て把握に努めている。 コミュニケーション可能な利用者に関しては、寄り添って昔話を傾聴して、これまでの馴染みの暮らし方の情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員交代時には、本人の心身状態（排泄・睡眠・食事など）を確認している。 一日の過ごし方の決定は本人にある。これまでの生活スタイルを重視しながら、且つ本人の出来る事を見極めて、有する力に見合った事を探している。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 介護計画では、利用者や家族（面会時など）との日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。 毎月1回、職員全員で意見交換やモニタリングを行い、介護計画の支援内容の達成感や満足感を評価して見直しを行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者のことをよく知る担当者が主となり、介護計画を見直した後、ユニット会議で意見交換して計画作成や見直しを行っている。利用者の個別記録には、利用者の話し言葉そのままを残すよう心がけており、毎月モニタリングを行って利用者の言葉と職員の評価をモニタリング表に記載している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 利用者の日々の記録は、個々の処遇記録や支援経過表に記載して情報を共有している。ケアの気づきや工夫などは、申し送りノートを活用して共有している。 職員全員で個別記録を基にモニタリングで評価し、介護計画の見直しを実施している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族が病院受診できない時は付き添ったり、急ぎよ外出したい気持ちになった時やそういう言動を感じた時は、利用者の状態を見ながら外出支援を行っている。また家族だけで外出が不安な場合は、一緒に付き添って支援している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域のふるさと館で同法人認知症デイサービスと合同作品展を開催して、地域の方に作品を見て感想をいただいている。また、地域の敬老会に参加して地元の人と交流したり、2ヶ月に1回の理容院の訪問で、外出できない人の散髪を協力していただいている。 消防署の出前講座では救急や防災の取り組みを運営推進委員の人と一緒に研修を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 同法人の医療機関が主治医の利用者が多いが、これまでの主治医の受診が継続できるように、家族の協力も得ながら支援をしている。 家族との主治医受診時は、情報提供書を主治医に提供して、連携を図っている。 (外部評価) 家族の協力を得て、利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診することができる。母体病院の協力医を、ほとんどの利用者はかかりつけ医としている。精神科などの専門医を受診している利用者には、医師に日頃の状態を細かく伝達する必要があるため、家族に管理者やユニットリーダーが同行し、情報を共有できるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 医療連携にて、同法人の訪問看護ステーションから看護師が訪問している。体調や些細な変化を見逃さないように、早期発見に取り組んでいる。気付いた事があれば看護師に報告し、適切な医療につなげたり、介護に対する助言を受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には医療機関へ情報提供を行い、施設での状況・認知面について等詳しく伝えるようにしている。約2日に1回は病院へ見舞うようにし、その都度状態を把握している。医師・看護師・ソーシャルワーカー・リハビリスタッフ等と退院に向けての回復状況等の情報交換をし、出来る限り早期の退院につなげられるように、情報提供をさせていただいている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 「終末期意向確認書」を作成し、本人・家族と話し合いを個別に持って、気持ちを確認している。新入居者に関しては入居時に方針を説明し確認をしている。しかし、家族の気持ちは揺れ動く事が多いことを理解し、本人の病状が悪化したりADLが低下しつつある時は、その都度話し合いを持つようにしている。 衰弱状態が著明な入居者に対しては、再度家族への状況報告や、医師から家族への病状説明を受ける事ができるように連携を図り、家族の希望を再確認しながら「看取りに関する指針」を再度説明している。 終末期の協力体制に関しては、グループ内で統一化に向けて委員会が活動している。 近隣に特養があり、急変時の受診（送迎）は協力していただける体制をとっている。 終末期に関する勉強会に関しては、担当を決めたり、外部研修・伝達講習し、職員間で看取り感を共有できるようにしている。 訪問看護師とも日々連携を図っており、終末期に向けて取り組める体制を整えている。 (外部評価) 看取りに関する指針を作成しており、終末期の意向を確認する面談を利用者や家族、管理者で実施している。終末期の支援に関する委員を決め、外部研修に参加し知識を深めている。また、看取りや終末期の支援の勉強会を開催しており、看護師が事例を活用して支援のあり方を学び職員間で共有している。また、母体病院の協力医や訪問看護の看護師と24時間体制での連携が取れており、利用者は医療面で安心して生活を送ることができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時対応マニュアルを作成し周知している。また、初期対応が出来るように消防の出前講座「救命救急」を受講して、実践力を身につける取り組みをしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は年2回実施。それ以外に新人職員が入職した場合は1ヶ月以内にも実施している。消防署の出前講座で防災に対する勉強会も実施している。 出前講座では消防署の助言で、当グループホームに特化した災害対策を指導していただいている。 運営推進会メンバーには消防関係の人が2名いるため、自主訓練時は来ていただいて評価をしてもらっている。また、グループ内病院の防火管理者にも訓練時は来ていただいて、評価をもらっている。 訓練後は反省会を実施し、次回の訓練につながるようになっている。また、職員がこれまで訓練に何度参加したか把握し、全職員が身につけることができるように取り組んでいる。 (外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を実施しており、立地条件や建物の構造面からの助言をもらっている。夜間を想定した訓練では、火元や危険度を判断して避難を行い、状況に即した訓練を実施している。運営推進会議で訓練の実施状況を報告しており、外部の意見を取り入れながら対策に活かしている。また、法人として現在マニュアルを作成しており、新たな災害対策を検討している。	日頃から職員の防災への意識を高めるため、防災設備の使い方や点検を定期的に職員も行うことが望ましい。また、地震対策の勉強会のみであるため、危険か所の見直しや避難方法に取り組んでいくことを期待したい。

## IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人に合った言葉かけを心がけている。排泄時の失敗に関しては、もし失敗をしてもさりげなく支援をして尊厳を失わないように対応している。職員会では、接遇委員が中心になって言葉かけの仕方を見直す機会も持っている。 (外部評価) 系列法人と一緒に接遇委員を設置し、外部講師を呼んで勉強会を開催しており、ユニット毎に1名の接遇委員が中心となり職員間の理解を深めている。排泄や入浴、着替えの介助時は、入室時に必ずノックを行い、プライバシー保護に努めている。利用者の名前の呼び方は、利用者が喜ぶ呼び方を使い、家族にも了解を得ている。また、職員全員が利用者のできることを尊重したいとの気持ちが強く、何事も利用者と一緒に行動する姿が伺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 普段の何気ない会話から、思いや希望（食べたい物、飲みたいもの、行ってみたい所、やってみたい事など）を聞きだせるようにコミュニケーションを持っている。また、言葉には表現できなくても、表情などで反応を注意深く判断して本人の思いをキャッチできるように関わっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調や気分配慮しながら支援している。お風呂は中止したい・ゆっくり起きたい・夜中もテレビを見たい・・・など、一人ひとりに合わせて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室でカラー・カットしてもらえるように支援したり、訪問理容師が来た時は、お気に入りのヘアスタイルが維持できるように協力を仰いでいる。 起床後すぐお化粧をする生活だった方には、引き続きその生活が出来るように支援したり、1日に何度も衣装変えを楽しみにしている人には、自分で衣装を選ぶ事が出来るように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事準備・片付けが可能な方には、下準備・盛り付け・配膳・片付けを職員とともにしたり、役割を持って食事を楽しめるように支援している。 誕生日や行事(祭りなど)にはお寿司や赤飯(本人が好む方)、ケーキを作ったり、楽しみを持てるようにしている。メニューに関しては、何が食べたいか普段の会話の中で聞きとりながら考えたり、食事は職員が同じ食卓を囲んで楽しく食べている。 (外部評価) 献立には利用者の好きなものや旬のものを取り入れ、職員が毎食調理している。利用者がカブを切るなどできることを手伝う姿が見られた。利用者の身体状況に合わせて、食事がしやすいように食器やトレイなどの工夫をしている。また、病状により、病院と連携して食事量や内容に配慮している。ユニット毎に外食にも出かけるよう支援しており、利用者が楽しめるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分補給に関しては好きなものが飲めるように支援したり、水分量が確保できるように2時間おきに補給してもらって1日の総摂取量を把握している。 利用者の好みを普段から把握し、定時に欲しくない時は時間を遅らせて提供するなど、一人ひとりに応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事前には緑茶でうがいを実施している。食後の口腔ケアは、出来る方には自分で、出来ない方には介助し、義歯の洗浄・消毒・歯ブラシコップの消毒を行っている。口腔の異常を見つけた時は、歯科受診もしている。歯科受診者は歯科医と連携をとって、支援方法を職員で共有して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を大切にしている。尿取りパット・おむつも本人に合わせて検討し、できるだけ下着で生活できる支援をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>チェック表に毎回記録し利用者毎の排泄状況を把握して、声かけや利用者の様子を見てトイレに誘導するなど、利用者全員がトイレに座って排泄できるように努めている。利用者ができることに配慮し、安全面を考えトイレには数種類の手すりを取り付けられている。夜間のポータブルトイレの使用も、主治医や家族と相談した上で導入し、利用者の状態に合わせた支援をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>水分摂取の把握・体操・腹部マッサージ・ヨーグルト・バナナ・繊維質の食事・牛乳を飲むなどを実施し、個々に応じた便秘予防に取り組んでおり、排便の重要性について常に意識するようにしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>週3回の入浴を基本としているが、その日の状態に合わせて入浴が可能かどうか決めている。順番が来ても嫌がる利用者に対しては順番を後回しにしたり、声かけする職員を交代して対応している。お湯の温度・浴槽に浸かる時間など、出来る範囲で本人の好みで支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>週3回を基本として利用者は入浴することができる。脱衣室と浴室は、落ち着いて入浴できる空間となっている。その日の体調で入浴できない利用者には、清拭をして清潔保持をしている。浴槽に入ることを怖く感じる利用者には、家族の同意を得て足浴を実施している。また、入浴が苦手な利用者には、無理強いをせず、気持ちに添って入浴できるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>その人の生活のペースで、午睡したり、心地よく眠れるように日中の活動に配慮している。寝付けない時は傍らで付き添ったり、温かい飲み物を飲んだり、それでも眠れない時は会話を楽しんで、眠れないことへの不安を解消し安心して過ごせる様に支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬情報を見て、作用・副作用・用法・容量など、薬の知識を得ている。きちんと内服できているかも毎回チェックしている。内服薬の変更時は「受診記録」を確認して、なぜ変更になったのか理解して対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事準備が得意な方、片づけが得意な方、掃除が得意な方など、それぞれに役割を持っている。気分転換に屋外に出たり、好きな歌と一緒に歌ったり、文字を書いたり、細かい手芸（編み物など）をしたり、一人ひとりの生活歴を把握して、得意な事が楽しみとして継続できるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室に出かけたり、買い物に出かけたり、関連施設での茶道クラブに参加したり、1階の保育所前のベンチで休憩して園児と触れ合ったり、戸外に出かけられるように支援している。外食行事や、家族との外食・地域の敬老会の参加など、家族の協力も得る事で外出支援をしている。 (外部評価) 車いすの利用者も散歩に出かけられるよう支援している。近所の栗林や竹林に出かけ、栗拾いや竹の子掘りをして炊き込みご飯を作るなど、季節を感じることができるよう努めている。事業所の戸外へ出ると建物の1階にある保育園の園児らがよく声をかけてくれる。利用者の希望に沿って、職員は積極的な外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員同行で買い物支援をした時は、個人の財布を持ち、支払いの際は自分で支払っていただけられるように見守っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 字の書ける方には家族への毎月のメッセージを書いて送っている。また、お誕生日のお祝いのお礼の手紙を家族に書いたり、家族の面会時に親類の方に電話を掛けて元気な声を聞いていただいている。暑中見舞いでは一筆添えて家族や大切な人に送っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用空間はリビング・ダイニング・キッチンと仕切りがないため、食事作りの音や匂いが漂っている。窓が大きいので、明るくて外の景色も一望できゆったりと過ごす事が出来る。玄関下にはベンチを設置し、小鳥の声や1階の保育所の子供たちの声を聞いて和やかな時間を過ごせるようにしている。中庭には小鳥の巣箱を設置し、入居者の楽しみになっている。ローカには畳ベンチを設置し、安全の確保と休憩・交流の場となっている。</p> <p>(外部評価) リビングは広く、ダイニングテーブルといすのほかにソファも置かれ、利用者の気分や活動に合わせて使われている。南側の大きな窓から明るい光が採られ、日差しの調整はカーテンで行っている。リビングには季節のものや書道作品などが飾られ、利用者も楽しんでいる姿が伺えた。毎朝、利用者も職員と一緒に掃除を行っている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 広い空間の所々に畳ベンチ・ソファ、窓際に机・椅子などを配置し、共用空間の中でも独りになったり、気の合う利用者同士で思い思いに過ごせる様に工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居前に使用していた家具・テレビ・家族の写真・好きな歌手等の写真を持参され、それぞれの利用者の居心地のよさに配慮している。</p> <p>(外部評価) 使い慣れた家具や置物を持ち込み、利用者の思い思いの居室となっている。小さな動物の置物が好きな利用者には、友人や家族が好みそうなものを持ってきてくれることがあり、きれいに並べて飾っている居室もある。加湿器を持参して、居室においでしている利用者もいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレや自分の居室がわかって移動出来るように、表札や目印を付けたり案内板を配置している。トイレや洗面所近くは、座って安全に順番を待つ事が出来るように椅子の設置もしている。 日付は、日めくりカレンダーで確認できるように壁に掛けており、「わかる」工夫をしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891300166
法人名	医療法人 健康会
事業所名	グループホームいしかわ
所在地	四国中央市上分町 861番地20
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 12 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階には保育所があり、世代を超えた楽しい交流を持つ事が出来ている。また、近隣には関連施設の特養・老健があり、交流行事も多く同世代の人や地域の人との交流の場にもなっている。また、建物の広さと明るさも特徴である。音楽ボランティアが来られた時は他事業所と交流したり、家族会で2ユニット全員が集合しても余裕を持って交流する事ができている。地域の小学校や高校との交流・インターンシップ受け入れを継続しており、将来の介護職員・認知症の理解につながるような関わりを働きかけている。また母体が医療機関であり、24時間緊急時の対応が可能であるため家族や利用者の安心につながっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に欠かせない母体が病院である事業所は、医療面において安心感があると同時に、地元の利用者も多く、利用者や家族にとって地域の中の事業所であると感じることができる。事業所では商店街や公民館、小学校に出かけて行き、地域と積極的に交流をしている。職員は利用者の家族や地域住民、様々なボランティアを自宅に招待するかのように入れている。管理者と職員は、「利用者は地域や社会に貢献してきた人である」との思いを共有して支援している、職員は、利用者を尊重しその人らしさを大切にす支援を心がけている。家族や地域、外部の関係機関とのつながりが深められており、各方面から事業所をサポートしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいしかわ

(ユニット名) もみじ

記入者(管理者)  
氏名 大倉 やよい

評価完了日 H25 年 11 月 14 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 私たちの理念は「ゆっくり・楽しく・いっしょに」である。覚えやすい文言に、職員で話し合っ決めて。 入居者様一人ひとりのペースに合わせるケアの提供、コミュニケーションを大切に心穏やかに暮せる環境づくり、入居者様の意思を尊重して自立の支援に取り組んでいる。理念はフロア等の目に付くところに掲示し共有しており、職員会等で日頃の介護の反省や今後の取り組みを、一緒に検討している。</p> <p>(外部評価) 一昨年、職員間で話し合い見直しを行い、意識に残りやすく実践できる理念を作成している。職員は、日々利用者をよく観察し、一人ひとりの希望に合わせて、一緒に寄り添い行動することに努めている。管理者は地域の敬老会に同行した時に、地域住民と利用者の関わりを見て、利用者は地域や社会に貢献してきた人であると強く感じ、地域に密着した支援に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 他事業所合同作品展開催・盆踊り大会・そうめん流し・祭り・地区敬老会・小学校の運動会参観など、事業所以外の地域の方と交流している。地元小学校との七夕交流会や高校生のインターンシップ受け入れは恒例となっている。 地区の老人会の方、推進メンバーさんの野菜の提供など、入居者様に地元の方が多いため、地元の皆さんとの交流は大変喜ばれる。</p> <p>(外部評価) 近隣に民家が少ない立地であるが、事業所のある地域の利用者も多いことから、商店街や公民館など積極的に出かけている。また、事業所の行事に地域の老人会の方に参加してもらったり、音楽療法やマジックショー、似顔絵などのボランティアの訪問など、地域や外部の人に事業所に来てもらう取組みに努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 高校生のインターンシップの受け入れを行い、介護や認知症に対する理解が深められるように、また将来の介護職につながるよう協力する取り組みを実践している。 また、市の認知症徘徊模擬訓練へ参加したり、キャラバンメイト研修を受けて認知症サポーター養成の協力をしたり、地域に貢献している。 現在法人内で、「認知症の人を地域で支える」プロジェクトチームを発足しており、介護予防事業としてのサロン等での講演会にも参加して、地域の方の認知症の相談も受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>2ヶ月間の取り組みや入居者様の変化などを報告し、それに対するご意見をいただいている。避難訓練に関しては、推進メンバーの中に消防団の方もいらっしゃるため協力的である。訓練の様子をみて指導して下さったり、一緒に消防出前講座に参加して救急対応や防災に関する研修を受けて、意見をいただいている。</p> <p>運営推進会議後には利用者との交流会を設けることもあり、利用者の現状を理解していただいたり地域の行事を教えていただいたりしている。また、ご自分の介護経験をお話していただいたり、地域で困っている認知症の方の情報を地域包括支援センター職員に相談したり、地域ぐるみで認知症支援できるように意見交換している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議は利用者や家族、地域住民、消防団員、地域包括支援センターの職員、公民館長等の参加を得て開催している。会議の参加者に事業所や利用者の様子を知ってもらうため、利用者との昼食会の開催や消防講座に参加してもらい、意見をもらっている。会議では、参加者から事業所のことを考えての意見が活発に出され、外部の意見を取り入れる機会として十分に機能している。また、会議の参加者に「近所で認知症で困りごとがあれば言ってください」と事業所で相談できることを伝えている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>市主催の消防署の出前講座（防災・救急）を開催して、市と連携がとれる取り組みをしており、市の方の出入りが出来る風通しの良い環境づくりに取り組んでいる。運営推進会議では市の認知症予防の取り組みも教えていただいている。</p> <p>市の認知症サポーター養成の取り組みとして、職員がキャラバンメイト研修を受けて、今後は地域の認知症理解のために協力していける体制を作っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加しており、事業所の実情をよく知ってもらっている。市が認知症理解の取組を進めるにあたり、法人として市の聞き取りに応えるなどの協力をしている。また、認知症サポーター養成への参加や、毎月、定期的にふれあい相談員が訪問するなど、双方向で連絡を行う関係が築かれている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束に関しては勉強会を実施し、職員が「身体拘束はしてはならない事」と周知できるように取り組んでいる。</p> <p>玄関は日中は開錠している。夜間は防犯のため自動ロックされるが、チャイムが鳴れば開錠できるようになっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月の職員会で、職員が参加した外部研修の伝達研修を実施したり、認知症や身体拘束の勉強会を行い理解を深めている。職員は、利用者が苦痛に感じることや嫌なことは拘束にあたるかと考えており、利用者の立場に立った支援をしている。また、職員が入居したいと思える事業所づくりに努めている。職員間で気になることは管理者に相談し、常に振り返るように心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を実施し、虐待に関して職員が共通認識を持つように取り組んでいる。ふだんの関わりの中の言葉遣いに関しても、接遇研修を委員が年間を通じて受けており、職員会でみんなに伝達している。あらゆる面から虐待行為ではないか、振り返る事が出来るように取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 権利擁護や成年後見制度の勉強会を実施し、学ぶ機会をもうけている。また、人権擁護委員の訪問により学習したり交流する機会を持った。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前にはご家族・本人に来ていただき、グループホームを見学していただいて契約を結んでいる。施設の形態や生活様式を説明して理解していただいている。体験利用を希望される方には体験していただいて、納得した上で契約をしていただいている。契約時の説明項目をチェック表で設けており、説明忘れが無いように注意している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日常の連絡や面会時、ケアプランの説明時、家族会など、本音を話せる機会をもうけている。 満足度アンケートを実施し、ご意見は職員会で話し合って反映させ、結果は運営推進会議や家族に伝えている。 また、ふれあい相談員が月1回訪問し、利用者が直接言いにくい意見も聞いていただいている。 (外部評価) 月1回、事業所では家族に予定表とお便りを送付するなど利用者の様子を報告している。面会のある家族も多く、コミュニケーションを図るように努め、信頼関係を築いている。年2回行われる家族会の出席率は高く、2ユニット合同の家族会では、地域で関わりのあった家族同士もおり、家族間の交流を深めることができている。また、家族にアンケートを実施し、出された意見や要望は反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会の時には法人の決定事項を報告したり、現場の意見を聞いたりしている。年度初めの事業所目標（BSC）は、全職員で作成した。年度末には個人面接を行って意見や提案を聞く機会も設ける。  (外部評価) ユニットリーダーがユニット間の職員の意見をまとめ、管理者へ意見を伝えている。管理者は、事業所の要望を法人へ伝えることができている。また、利用者の支援に関することは必ずユニットで話し合った後、管理者へ報告している。職員は外部研修へ出張扱いで参加することができ、法人として積極的に職員の資質向上に努めていることが伺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 法人として人事考課制度を導入している。今年度法人移管に伴い、全職員の給与水準を上げている。資格取得者には手当を支給したり、正職員への登用もあった。 ケアマネ・介護福祉士取得のためにグループ内で試験対策講座を開いて、向上心をもって働けるように支援している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 人事考課制度を導入し、管理者を含め一人ひとりの力量を把握している。資格取得に向けた支援（合格のための試験対策講座開催）や外部研修は本人の自主性を尊重して自分で選択して参加している。外部研修後は職員会で伝達講習を実施し、まとめて発表するトレーニングにもつなげている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市内でグループホーム交流会を設立し、3ヶ月に1回の勉強会・情報交換を持ち回り主催で開催している。また、愛媛県地域密着型サービス協会に入会しており、定期的開催される東予地区の研修会に参加している。他グループホームとの意見交換を行った時は、他グループホームの良い取り組みなど伝達講習して、当事業所の取り組みに活かすことができないか検討している。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始前は見学または体験利用をしていただいて、じっくり本人とコミュニケーションを図って、思い・要望に耳を傾けている。また、入居前には利用中のサービス事業所への訪問や自宅訪問等をして、情報交換や本人とコミュニケーションを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 自宅訪問・利用中のサービス事業所・担当ケアマネから、それぞれの立場で取得している家族等の要望に耳を傾けている。これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、ゆっくり聞いて関係作りに努めている。また、体験時の利用者の様子は家族に情報提供し、これから一緒に支援していく関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居初期段階では、これまで関わっていた担当ケアマネ・他事業所・かかりつけ医等との情報交換を行い、背景にある問題を見極めたり支援内容を検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 洗濯干し・洗濯畳み・台所仕事・掃除など、個々の利用者が出来る事は、一緒に会話を楽しみながら行っている。主婦の大先輩として、家事や子育ての悩みを聞いていただいたり、相談相手にもなってもらい、お互いに寄り添う関係作りを築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に勝る介護者はなく、これまでの家族の苦労や葛藤を心に留めて家族や利用者を支援している。そのため、家族には利用者の様子をきめ細かく伝えたり、相談をしているため、一緒に本人を支える協力関係を築く事が出来ている。字の書ける利用者には手紙やメッセージなどを書いていただいて家族との関係が途切れないように留意したり、日頃の暮らしぶりを写真付きの暑中見舞いはがきで送ったりしている。面会時は一緒にお茶を飲んでいただきながら会話を楽しんでいただき、絆を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力の下、家族と一緒に食事(外食)をしたり、自宅に帰って近隣の人と交流する機会を作っていたりしている。また、これまで利用されていた美容室を利用したり、地域のサロンへ参加できるように入居前の生活習慣を尊重している。近所や友人の面会もある。外出先に関しては、本人の日常発せられる会話から汲み取って、馴染みの人に会える様に支援をしている。  (外部評価) 利用者のお墓参りを支援したことから、家族が積極的に外出支援を協力してくれるようになった事例がある。外出記録に外出先や面会した人を記録し、馴染みの場所や人の把握に努めている。訪問調査の当日に、多くの利用者が「いらっしゃい」と声をかけてくれ、職員と一緒にお茶を入れてくれた様子は、自宅に招いてもらったようであり、事業所が家庭的な馴染みの場となり、職員と利用者同士の良好な関係が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事・お茶・レクリエーションなど、居室にいる利用者にも必ず声かけして一緒に楽しんだり、孤立感を感じさせないようにしている。 また、仲よし同士で会話が楽しめるように、畳ベンチを設置して環境設定も工夫している。利用者同士の関係性は職員が理解しており、感情で日々変化する事もあるので見守るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設に入居された方には、色紙や写真などを持って面会に行っている。 またその施設の職員に会った時は、その後の様子を聞いたりしている。また、情報提供書は入所前に入所先の施設に提供しているが、退去後も相談を受けた時はこちらでの様子や支援内容について再度情報提供して、退去後も相談や支援に努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアカンファレンスでは、職員全員で一人ひとりについて思いを検討している。日頃の何気ない会話の中に本人の思いがないかなど、日々の関わりの中で意向の把握に努めて、職員間で情報共有している。 思いを伝える事が困難な場合も、表情から読み取ったり返答しやすい質問にしたり、職員を交代するなどの工夫をして、本人の気持ちに沿った支援をしている。	
			(外部評価) 職員は日々の生活や会話を大切にし、利用者の思いの把握に努めている。センター方式を用いて利用者を理解し、職員間で情報を共有している。職員からの提案で、利用者の思いを実現させる取組みに力を入れ、干し柿づくりや生家の写真を撮ってくるなどの支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴やライフスタイルを、家族に協力してもらって情報を得ている。また、利用していたサービス事業者やケアマネからも情報を得て把握に努めている。 コミュニケーション可能な利用者に関しては、寄り添って昔話を傾聴して、これまでの馴染みの暮らし方の情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員交代時には、本人の心身状態（排泄・睡眠・食事など）を確認している。 一日の過ごし方の決定は本人にある。これまでの生活スタイルを重視しながら、且つ本人の出来る事を見極めて、有する力に見合った事を探している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画では、利用者や家族（面会時など）との日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。 毎月1回、職員全員で意見交換やモニタリングを行い、介護計画の支援内容の達成感や満足感を評価して見直しを行っている。  (外部評価) 利用者のことをよく知る担当者が主となり、介護計画を見直した後、ユニット会議で意見交換して計画作成や見直しを行っている。利用者の個別記録には、利用者の話し言葉そのままを残すよう心がけており、毎月モニタリングを行って利用者の言葉と職員の評価をモニタリング表に記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の記録は、個々の処遇記録や支援経過表に記載して情報を共有している。ケアの気づきや工夫などは、申し送りノートを活用して共有している。 職員全員で個別記録を基にモニタリングで評価し、介護計画の見直しを実施している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族が病院受診できない時は付き添ったり、急ぎよ外出したい気持ちになった時やそういう言動を感じた時は、利用者の状態を見ながら外出支援を行っている。また家族だけで外出が不安な場合は、一緒に付き添って支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のふるさと館で同法人認知症デイサービスと合同作品展を開催して、地域の方に作品を見て感想をいただいている。また、地域の敬老会に参加して地元の人と交流したり、2ヶ月に1回の理容院の訪問で、外出できない人の散髪を協力していただいている。 消防署の出前講座では救急や防災の取り組みを運営推進委員の人と一緒に研修を受けている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 同法人の医療機関が主治医の利用者が多いが、これまでの主治医の受診が継続できるように、家族の協力も得ながら支援をしている。 家族との主治医受診時は、情報提供書を主治医に提供して、連携を図っている。 (外部評価) 家族の協力を得て、利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診することができる。母体病院の協力医を、ほとんどの利用者はかかりつけ医としている。精神科などの専門医を受診している利用者には、医師に日頃の状態を細かく伝達する必要があるため、家族に管理者やユニットリーダーが同行し、情報を共有できるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 医療連携にて、同法人の訪問看護ステーションから看護師が訪問している。体調や些細な変化を見逃さないように、早期発見に取り組んでいる。気付いた事があれば看護師に報告し、適切な医療につなげたり、介護に対する助言を受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には医療機関へ情報提供を行い、施設での状況・認知面について等詳しく伝えるようにしている。約2日に1回は病院へ見舞うようにし、その都度状態を把握している。医師・看護師・ソーシャルワーカー・リハビリスタッフ等と退院に向けての回復状況等の情報交換をし、出来る限り早期の退院につなげられるように、情報提供をさせていただいている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 「終末期意向確認書」を作成し、本人・家族と話し合いを個別に持って、気持ちを確認している。新入居者に関しては入居時に方針を説明し確認をしている。しかし、家族の気持ちは揺れ動く事が多いことを理解し、本人の病状が悪化したりADLが低下しつつある時は、その都度話し合いを持つようにしている。 衰弱状態が著明な入居者に対しては、再度家族への状況報告や、医師から家族への病状説明を受ける事ができるように連携を図り、家族の希望を再確認しながら「看取りに関する指針」を再度説明している。 終末期の協力体制に関しては、グループ内で統一化に向けて委員会が活動している。 近隣に特養があり、急変時の受診（送迎）は協力していただける体制をとっている。 終末期に関する勉強会に関しては、担当を決めたり、外部研修・伝達講習し、職員間で看取り感を共有できるようにしている。 訪問看護師とも日々連携を図っており、終末期に向けて取り組める体制を整えている。 (外部評価) 看取りに関する指針を作成しており、終末期の意向を確認する面談を利用者や家族、管理者で実施している。終末期の支援に関する委員を決め、外部研修に参加し知識を深めている。また、看取りや終末期の支援の勉強会を開催しており、看護師が事例を活用して支援のあり方を学び職員間で共有している。また、母体病院の協力医や訪問看護の看護師と24時間体制での連携が取れており、利用者は医療面で安心して生活を送ることができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時対応マニュアルを作成し周知している。また、初期対応が出来るように消防の出前講座「救命救急」を受講して、実践力を身につける取り組みをしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は年2回実施。それ以外に新人職員が入職した場合は1ヶ月以内にも実施している。消防署の出前講座で防災に対する勉強会も実施している。 出前講座では消防署の助言で、当グループホームに特化した災害対策を指導していただいている。 運営推進会メンバーには消防関係の人が2名いるため、自主訓練時は来ていただいて評価をしてもらっている。また、グループ内病院の防火管理者にも訓練時は来ていただいて、評価してもらっている。 訓練後は反省会を実施し、次回の訓練につながるようにしている。また、職員がこれまで訓練に何度参加したか把握し、全職員が身につけることができるように取り組んでいる。 (外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を実施しており、立地条件や建物の構造面からの助言をもらっている。夜間を想定した訓練では、火元や危険度を判断して避難を行い、状況に即した訓練を実施している。運営推進会議で訓練の実施状況を報告しており、外部の意見を取り入れながら対策に活かしている。また、法人として現在マニュアルを作成しており、新たな災害対策を検討している。	日頃から職員の防災への意識を高めるため、防災設備の使い方や点検を定期的に職員も行うことが望ましい。また、地震対策の勉強会のみであるため、危険か所の見直しや避難方法に取り組んでいくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人に合った言葉かけを心がけている。排泄時の失敗に関しては、もし失敗をしてもさりげなく支援をして尊厳を失わないように対応している。職員会では、接遇委員が中心になって言葉かけの仕方を見直す機会も持っている。 (外部評価) 系列法人と一緒に接遇委員を設置し、外部講師を呼んで勉強会を開催しており、ユニット毎に1名の接遇委員が中心となり職員間の理解を深めている。排泄や入浴、着替えの介助時は、入室時に必ずノックを行い、プライバシー保護に努めている。利用者の名前の呼び方は、利用者が喜ぶ呼び方を使い、家族にも了解を得ている。また、職員全員が利用者のできることを尊重したいとの気持ちが強く、何事も利用者と一緒にやる様子が伺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 普段の何気ない会話から、思いや希望（食べたい物、飲みたいもの、行ってみたい所、やってみたい事など）を聞きだせるようにコミュニケーションを持っている。また、言葉には表現できなくても、表情などで反応を注意深く判断して本人の思いをキャッチできるように関わっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調や気分配慮しながら支援している。お風呂は中止したい・ゆっくり起きたい・夜中もテレビを見たい・・・など、一人ひとりに合わせて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室でカラー・カットしてもらえるように支援したり、訪問理容師が来た時は、お気に入りのヘアスタイルが維持できるように協力を仰いでいる。 起床後すぐお化粧をする生活だった方には、引き続きその生活が出来るように支援したり、1日に何度も衣装変えを楽しみにしている人には、自分で衣装を選ぶ事が出来るように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事準備・片付けが可能な方には、下準備・盛り付け・配膳・片付けを職員とともにしたり、役割を持って食事を楽しめるように支援している。 誕生日や行事(祭りなど)にはお寿司や赤飯(本人が好む方)、ケーキを作ったり、楽しみを持てるようにしている。メニューに関しては、何が食べたいか普段の会話の中で聞きとりながら考えたり、食事は職員が同じ食卓を囲んで楽しく食べている。 (外部評価) 献立には利用者の好きなものや旬のものを取り入れ、職員が毎食調理している。利用者がカブを切るなどできることを手伝う姿が見られた。利用者の身体状況に合わせて、食事がしやすいように食器やトレイなどの工夫をしている。また、病状により、病院と連携して食事量や内容に配慮している。ユニット毎に外食にも出かけるよう支援しており、利用者が楽しめるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分補給に関しては好きなものが飲めるように支援したり、水分量が確保できるように2時間おきに補給してもらって1日の総摂取量を把握している。 利用者の好みを普段から把握し、定時に欲しくない時は時間を遅らせて提供するなど、一人ひとりに応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事前には緑茶でうがいを実施している。食後の口腔ケアは、出来る方には自分で、出来ない方には介助し、義歯の洗浄・消毒・歯ブラシコップの消毒を行っている。口腔の異常を見つけた時は、歯科受診もしている。歯科受診者は歯科医と連携をとって、支援方法を職員で共有して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を大切にしている。尿取りパット・おむつも本人に合わせて検討し、できるだけ下着で生活できる支援をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>チェック表に毎回記録し利用者毎の排泄状況を把握して、声かけや利用者の様子を見てトイレに誘導するなど、利用者全員がトイレに座って排泄できるように努めている。利用者ができることに配慮し、安全面を考えトイレには数種類の手すりを取り付けられている。夜間のポータブルトイレの使用も、主治医や家族と相談した上で導入し、利用者の状態に合わせた支援をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>水分摂取の把握・体操・腹部マッサージ・ヨーグルト・バナナ・繊維質の食事・牛乳を飲むなどを実施し、個々に応じた便秘予防に取り組んでおり、排便の重要性について常に意識するようにしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>週3回の入浴を基本としているが、その日の状態に合わせて入浴が可能かどうか決めている。順番が来ても嫌がる利用者に対しては順番を後回しにしたり、声かけする職員を交代して対応している。お湯の温度・浴槽に浸かる時間など、出来る範囲で本人の好みで支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>週3回を基本として利用者は入浴することができる。脱衣室と浴室は、落ち着いて入浴できる空間となっている。その日の体調で入浴できない利用者には、清拭をして清潔保持をしている。浴槽に入ることを怖く感じる利用者には、家族の同意を得て足浴を実施している。また、入浴が苦手な利用者には、無理強いをせず、気持ちに添って入浴できるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>その人の生活のペースで、午睡したり、心地よく眠れるように日中の活動に配慮している。寝付けない時は傍らで付き添ったり、温かい飲み物を飲んだり、それでも眠れない時は会話を楽しんで、眠れないことへの不安を解消し安心して過ごせる様に支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬情報を見て、作用・副作用・用法・容量など、薬の知識を得ている。きちんと内服できているかも毎回チェックしている。内服薬の変更時は「受診記録」を確認して、なぜ変更になったのか理解して対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事準備が得意な方、片づけが得意な方、掃除が得意な方など、それぞれに役割を持っている。気分転換に屋外に出たり、好きな歌を一緒に歌ったり、文字を書いたり、細かい手芸（編み物など）をしたり、一人ひとりの生活歴を把握して、得意な事が楽しみとして継続できるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室に出かけたり、買い物に出かけたり、関連施設での茶道クラブに参加したり、1階の保育所前のベンチで休憩して園児と触れ合ったり、戸外に出かけられるように支援している。外食行事や、家族との外食・地域の敬老会の参加など、家族の協力も得る事で外出支援をしている。 (外部評価) 車いすの利用者も散歩に出かけられるよう支援している。近所の栗林や竹林に出かけ、栗拾いや竹の子掘りをして炊き込みご飯を作るなど、季節を感じることができるよう努めている。事業所の戸外へ出ると建物の1階にある保育園の園児らがよく声をかけてくれる。利用者の希望に沿って、職員は積極的な外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員同行で買い物支援をした時は、個人の財布を持ち、支払いの際は自分で支払っていただけられるように見守っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 字の書ける方には家族への毎月のメッセージを書いて送っている。また、家族の面会時に親類の方に電話を掛けて元気な声を聞いていただいている。暑中見舞いでは一筆添えて家族や大切な人に送っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p><b>(自己評価)</b> 共用空間はリビング・ダイニング・キッチンと仕切りがないため、食事作りの音や匂いが漂っている。窓が大きいので、明るくて外の景色も一望できゆったりと過ごす事が出来る。玄関下にはベンチを設置し、小鳥の声や1階の保育所の子供たちの声を聞いて和やかな時間を過ごせるようにしている。中庭には小鳥の巣箱を設置し、入居者の楽しみになっている。ローカには畳ベンチを設置し、安全の確保と休憩・交流の場となっている。</p> <p><b>(外部評価)</b> リビングは広く、ダイニングテーブルといすのほかにソファも置かれ、利用者の気分や活動に合わせて使われている。南側の大きな窓から明るい光が採られ、日差しの調整はカーテンで行っている。リビングには季節のものや書道作品などが飾られ、利用者も楽しんでいる姿が伺えた。毎朝、利用者も職員と一緒に掃除を行っている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p><b>(自己評価)</b> 広い空間の所々に畳ベンチ・ソファ、窓際に机・椅子などを配置し、共用空間の中でも独りになったり、気の合う利用者同士で思い思いに過ごせる様に工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p><b>(自己評価)</b> 入居前に使用していた家具・テレビ・家族の写真・好きな歌手等の写真を持参され、それぞれの利用者の居心地のよさに配慮している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 使い慣れた家具や置物を持ち込み、利用者の思い思いの居室となっている。小さな動物の置物が好きな利用者には、友人や家族が好みそうなものを持ってきてくれることがあり、きれいに並べて飾っている居室もある。加湿器を持参して、居室においでしている利用者もいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p><b>(自己評価)</b> トイレや自分の居室がわかって移動出来るように、表札や目印を付けたり案内板を配置している。トイレや洗面所近くは、座って安全に順番を待つ事が出来るように椅子の設置もしている。 日付は、日めくりカレンダーで確認できるように壁に掛けており、「わかる」工夫をしている。</p>	